

「聾」の字の妥当な取り扱いに関する研究

山 田 康 朝
(山梨大学大学院)

I. はじめに

現在の山梨県立ろう学校は、これまでに5回の校名改称が行われた（表1）。山梨県公報（1949）によると、昭和24年4月から「山梨県立聾学校」が正式な校名として表記されている（資料1）。また、山梨県公報（1964）によると、昭和39年4月から「山梨県立ろう学校」が正式な校名として表記されている（資料2）。つまり、昭和24年4月から昭和39年3月末の期間は「山梨県立聾学校」が正式な校名として位置づけられる。しかし、昭和24年4月から昭和39年3月末の期間の山梨県公報には「ろう」や「ろう」等のひらがな表記が混在している（山梨県公報，1949-1964）（資料3・表2）。山梨県立ろう学校の変遷や沿革等の情報が記載されているいくつかの文献（特殊教育百年記念山梨県協賛会/編，1978；山梨県立ろう学校/編，1983；山梨県立ろう学校義務制施行50周年記念誌編集係/編，1998；山梨県立ろう学校/編，2002）（資料4；資料5；資料6；資料7）にも同様にひらがな表記が混在している。

そこで本稿では、「聾」が「ろう」や「ろう」等に言い換えられた背景を検討することを通して、「聾」の字の適正な取り扱いについて提案をすることを目的とする。

表1 山梨県立ろう学校の校名改称の年表（筆者作成）

明治42（1909）年	私立山梨訓盲院が設立
大正12（1923）年4月20日	私立山梨盲啞学校に改称
昭和6（1931）年4月1日	山梨県立代用盲啞学校に改称
昭和17（1942）年3月6日	山梨県立盲啞学校に改称
昭和24（1949）年4月1日	山梨県立聾学校に改称
昭和39（1964）年4月1日	山梨県立ろう学校に改称

<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立石和高等学校 山梨県立山梨園芸高等学校 山梨県立日川高等学校 山梨県立山梨高等学校 山梨県立塩山商業高等学校 山梨県立都留高等学校 山梨県立谷村高等学校 山梨県立吉田高等学校 山梨県立北富士工業高等学校 山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>
<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>	<p>山梨県立盲学校 山梨県立ろう学校 山梨県立養護学校</p>

資料1 山梨県公報 (1949) より

資料2 山梨県公報 (1964) より

<p>規則第四號 梨縣立聾學校 昭和二十四年 24.3.18.1 校、ろう学校 25.3.1.1 盲学校費 聾學校費 通信教育費 図書館費 25.11.30.1</p>	<p>梨縣立聾學校 24.3.18.2 7 盲 学 校 8 聾 学 校 6) 社会及び 25.3.27.1 前項の授業料 ろう学校 26.3.31.1</p>	<p>梨縣立聾學校 24.3.18.3 立 立 聾 学 校 立 盲 学 校 25.4.1.1 の課程 及びろう学校 学期中の授 26.3.31.2</p>	<p>三月十一日 及び聾學校を 縣立ろう学校 告示第十五号 24.3.18.4 25.4.3.1 幼稚園教諭 二級普通免許 27.2.18.1</p>	<p>及聾學校を 縣立ろう学校 告示第十五号 24.3.18.4 25.4.3.1 幼稚園教諭 二級普通免許 27.2.18.1</p>	<p>盲 学 校 聾 学 校 24.3.18.5 縣公立学校副 縣立ろう学校 委員会定例会 委員会臨時会 25.5.1.1 同、同 一級普通免許 28.2.23.1</p>	<p>盲 学 校 聾 学 校 24.7.28.1 の八第一項 に付された学 齢は、ろう学 校に 25.9.14.1 又は、ろう学 校の夜間そ 29.4.15.1</p>
--	---	---	---	--	--	--

別表第一の
ろう学校教育
つては5級以
上、新制高校

29.4.19.1
定時制高等
盲学校
ろう学
図書館

31.8.27.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

32.4.22.1
同二級普通
ろう学校
通信教

32.9.2.1
は盲ろう学
校の分

32.11.26.4
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

33.8.28.1
ろう盲学校高等部
特殊教育

34.3.2.1
盲学校
ろう学
通信教
図書館

34.10.26.1
同状ろう学
校教諭

35.8.11.1
盲学校教諭

定時制高等学
盲学校
ろう学校

30.4.25.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

32.1.28.1
高等学
ろ、う学
諸衛生

32.6.6.1
幼稚園教
一級普通
ろう学校
通信教

32.9.2.2
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

33.1.13
甲府工業同
ろ、う学
教育

33.9.12.1
定時制高等
盲学校
ろう学
社会教

34.3.30.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

35.1.14.1
同状ろう学
校教諭

35.8.11.2

定時制高等学
ろう学校
通信教育
図書館

30.7.25.1
ろう盲学校
特殊教育入英
高

32.2.15.1
校又は聾学校
事務職員の
左の各号に掲

32.7.15.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

32.10.24.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

33.3.17.1
ろ、う学
教育、管理上

33.9.12.2
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

34.4.13.1
幼稚園教諭二
一級普通
ろう学校
通信教

35.3.3.1
盲学校
ろう学
通信教
図書館

35.11.7.1

盲学校
ろう学校
通信教育

30.10.31.1
職員免許状
ろう学校高等
三十二年度ハ
校定時制生徒

32.3.4.1
校又は聾学校
する講師(以
九条教育職

32.7.15.2
盲ろう学校の
教諭
昭和三十二年
教育職員免許
校、ろう学校
三十三年度ハ

32.11.26.1
教育職員免許
校、ろう学校
三十三年度ハ

33.4.3.1
山梨高等
ろ、う学
身延高等

33.10.21.1
二級普通
ろう学校
通信教
養護教諭
飯免許状

34.6.4.1
盲学校
ろ、う学
教育研修
社会教

35.3.28.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

36.1.16.1

盲学
ろ、う学
通信教
図書

31.1.23.1
変更
ろ、う学
三十二年度ハ
校、ろう学校
高等

32.4.1.1
で、養護教諭、
園の園長、教
で、養護教諭、
園の園長、教

32.7.15.3
盲ろう学校の
教諭
旧新

32.11.26.2
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

33.4.10.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

33.12.27.1
二級普通
ろう学校
通信教
一級普通
ろう学校
通信教

34.8.3.1
ろ、う学
法の処理をさ
う

35.4.4.1
定時制高等
盲学校
ろう学
通信教

36.3.27.1

盲学
ろ、う学
通信教
図書館

31.4.19.1
定時制高等
ろ、う学
恩給

32.4.4.1
定時制高等
盲学校
ろ、う学
図書館

32.7.29.1
ろ、う学
図書館
ろ、う学
図書館

32.11.26.3
普通養護
通免論
ろ、う学
通信教

33.6.19.1
定時制高等
盲学校
ろ、う学
通信教

34.1.8.1
盲学校
ろ、う学
図書館
教育研修

34.8.6.1
盲学校
ろ、う学
通信教
図書館

35.4.11.1
定時制高等
盲学校
ろ、う学
通信教

36.4.17.1

行の日数は、 びろう学校の びろう学校の 並びに盲学校 36.5.4.1 定時制高等 盲学校 通信教 37.1.22.1 「梨大月支金 37.12.24.1 盲学校 通信教 38.3.28.1 盲学校 通信教 39.3.26.1	県及び伊豆諸 及び四国（高 合は、同一学 36.5.4.2 通信教 37.4.9.1 三月三十一日 免許状 37.12.27.1 通信教 38.4.8.1 県立養護学校 39.3.31.1	同 ろう学校教諭 幼稚園教諭一 高等学校助教 36.9.18.1 高等学校教諭 37.6.14.1 盲学校 通信教 38.1.7.1 盲学校 通信教 38.6.25.1 ろう学校、 39.3.31.2	同 養護教諭二級 ろう学校教諭 高等学校助教 36.9.21.1 定時制高等 盲学校 通信教 37.7.26.1 盲学校 通信教 38.3.18.1 盲学校 通信教 38.8.5.1	ろ う 36.10.2.1 盲学校 通信教 37.10.15.1 同 養護教諭二級 ろう学校教諭 38.3.20.1 盲学校 通信教 39.1.13.1	定時制高等 盲学校 通信教 36.10.9.1 盲学校 通信教 37.12.6.1 同 ろう学校教諭 盲学校教諭 38.3.20.2 処理は公正に ひは、ろ う 39.3.9.1
--	--	--	---	--	---

※凡例：昭和年．月．日．同月日の記載数

資料3 山梨県公報（1949-1964）に記載されている「聾」の誤り

表2 山梨県公報（1949-1964）に記載されている「聾・聾・ろう・ろう」の字の集計
（資料3の集計）

昭 和	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
聾	6	3														
ろう 聾									3							
ろう		4	2	1	1	1	2	1	10	10	8	7	9	8	8	4
ろう						1	1	2	4							

年 度	特殊教育諸学校関係
戦 前	<ul style="list-style-type: none"> ○明治42年甲府市琢美小学校内に盲人教育所を設置 ○大正8年甲府市連雀町山梨基督教会内に私立山梨訓盲院を設置 ○大正11年ろう哑部を併置して私立山梨盲哑学校と改称 ○大正13年甲府市百石町に校舎を新築移転 ○昭和17年県立に移管されて山梨県立盲哑学校と改称
昭和22	
23	○県立盲哑学校に高等部（本科及び別科）を設置
24	○県立盲哑学校を廃止、山梨県立盲学校・山梨県立ろう学校と改称、小学部・中学部・高等部を設置
25	<ul style="list-style-type: none"> ○県立盲学校に専攻科を設置 ○県立ろう学校分校を東山梨郡山梨村に設置、小学部3年までを収容
26	<ul style="list-style-type: none"> ○県立ろう学校山梨村に移転 ○県立盲学校高等部をあんま・はり・灸師養成学校として認定

資料4 特殊教育百年記念山梨県協賛会/編（1978）の特殊教育年表に記載されている「聾」の誤り

” 23. 4. 1	聾学校の義務制が施行され、聾部児童生徒数小学部59名、中学部13名、合計72名となり、教員数7名となった。
” 23. 4. 1	山梨県立盲哑学校聾部に職業科（被服科）を設置した。
” 24. 4. 1	山梨県立盲哑学校は廃止され、山梨県立ろう学校となり、小学部・中学部・高等部を設置した。

資料5 山梨県立ろう学校/編（1983）の沿革に記載されている「聾」の誤り

「ろう学校」の起源と50年の歩み

私立盲啞学校時代

大正11年4月20日(起源)～昭和6年3月31日(9年間)

山梨県立代用盲啞学校時代

昭和6年4月1日～昭和17年3月31日(11年間)

山梨県立盲啞学校時代

昭和17年4月1日～昭和23年3月31日(6年間)

山梨県立ろう学校時代

昭和23年4月1日 義務教育制度施行

昭和24年4月1日 盲啞学校は廃止、県立聾学校と改称

資料6 山梨県立ろう学校義務制施行50周年記念誌編集係/編(1998)の「ろう学校」の起源と50年の歩みに記載されている「聾」の誤り

1 私立盲啞学校時代 (卒業生 小学部 男5名)

大正11年4月20日 山梨訓盲院(甲府市琢美小学校内)に聾部を設置し、私立盲啞学校と改称し、聾児5名を収容(設置者 塚原等氏)

大正12年4月1日 甲府市工町工芸学校内に移転

大正13年11月27日 甲府市百石町に校舎を新築移転

2 山梨県立代用盲啞学校時代 (卒業生 小学部 男25名・女12名)

昭和6年4月1日 山梨県立代用盲啞学校と改称(生徒15名)

3 山梨県立盲啞学校時代 (卒業生 小学部 男11名・女10名 中学部 男2名・女2名)

昭和17年4月1日 山梨県立盲啞学校と改称(甲府市日向町7)

昭和19年3月12日 甲府市日向町7(山梨県立蚕業取締所の一部)に移転、百石町旧校舎を寄宿舎として使用

昭和20年7月6日 戦災により寄宿舎を焼失

昭和20年9月20日 罹災傷病者救済のため日向町校舎を県病院に貸与し、西八代郡共和村田原若林武校長宅へ疎開

昭和21年9月21日 甲府市岩窪町 深沢氏宅の一部を借り、共和村より移転

昭和22年4月15日 甲府市古府中町六三部隊兵舎に移転

昭和22年9月3日 甲府市日向町校舎に移転

4 山梨県立ろう学校時代

(卒業生 小学部 男205名・女194名、中学部 男205名・女187名、高等部 男133名・女143名)

昭和23年4月1日 義務教育制度施行(生徒72名、学級7・教室7)

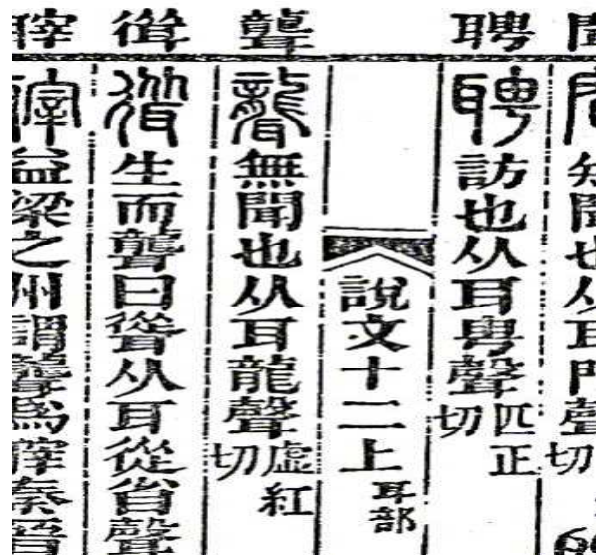
昭和24年4月1日 盲啞学校は廃止、山梨県立聾学校となり、小学部・中学部・高等部を設置

資料7 山梨県立ろう学校/編(2002)の沿革に記載されている「聾」の誤り

Ⅱ.「聾」の語源

中国最古の文字学書である『説文解字』(許慎撰, 1985)によると、「聾 無聞也从耳龍聲」(資料8)と記述されている。これを解説すると、「聾とは聞こえない者を指し、耳は意味を表す部分であり、龍は発音を表す部分」という形声文字である。たとえば、「口と亜で啞」や「金と同で銅」等である。

つまり、「聾」は、聞くことをつかさどる身体の構造を示す「耳」と、音を示す「龍」を組み合わせた形声文字であり、「龍」部には特別な意味を含めた語ではなく、「盲」に比べるとより中立的であるといえる。



資料8 許慎撰（1985）に記載されている「聾」の語源

Ⅲ.「聾」の俗説

「聾」の字にまつわる俗説として、日本聴力障害新聞（昭和27年1月1日）に次のように記述されている。

「この耳は実際は役立たず、その上にある鹿の角みたいなものがアンテナの役目をして物音を聞く、故に耳の聞えぬ龍の耳としてすなわち聾と読む。どうせ実在しない動物なのですから、これもいいかげんな作りごとでしょう」（資料9）として、「聾」の字にまつわる俗説は根拠がないと指摘している。

。しからはこの龍には耳が無いのはと絵など見ると立派な耳がちゃんとあります。ところが辞典などでしらべてゆくとこの耳は実際は役立たず、その上にある鹿の角みたいなものがアンテナの役目をして物音を聞く、故に耳の聞えぬ龍の耳としてすなわち聾と読む。とあります。

どうせ実在しない動物なのですから、これもいいかげんな作りごとでしょうが、私は私なりに勝手な解釈をしていたのです。つまり龍はすべての特長を持つ偉大な動物である。眼光千里を睥睨し、耳又鋭敏なものであったに違いない。文字の上では「爪につめあり爪につめなし」という事もあるように、ミミある龍に耳なくて、ミミの無い私たち聾に耳がある、としても別段変でもない。こんな風に私は考えたのです。さて

資料9 日本聴力障害新聞（昭和27年1月1日）記載の「聾」の俗説に関する記事

Ⅳ. 当用漢字表導入の影響

『当用漢字表』は、「わが国で使われる漢字の数があまりに多いのでこれを制限して、現代国語を書き表わすため日常使用する漢字の範囲を定めたもの」である。「聾」は、その『当用漢字表』に含まれておらず、その後通知された『公用文改善の趣旨徹底について（建議）』の『公用文作成の要領』（1952）によって、「新しいことばをくふうして使う」として「聾[×]話学校→口話学校」が示されている。これにより、「聾」は「ろう」あるいは「ろう」[×]、「聾」と表記されるようになったと考えられる。

このことから、昭和24年4月から昭和39年3月末までの「山梨県立聾学校」時代に、「ろう」あるいは「ろう」[×]、「聾」等の様々な表現がされていることについて、差別的な意味合いによってひらがな表記が用いられたわけではないことが理解できる。そこには、行政上実務的にひらがな表記を用いて表現をしていたことが考えられる。

Ⅴ. おわりに

以上のとおり、「聾」は差別的な意味合いはなく、当用漢字の導入を契機にして行政上実務的に言い換えが進められたことが理解できる。たとえば、「障碍」から「障害」へと言い換えられたのも同様であり、そもそも「障碍」が本来の姿である。同様にして、「聾」は「ろう」ではなく「聾」であるべきはずである。行政上実務的に言い換えが進められた事実を関係者は考慮し、慎重な使い方が求められる。

最後に、朝日新聞（2008年3月10日35面掲載）の記事についてふれる。静岡県特別支援教育課の名倉慎一郎課長は「一般に『聾』という字には差別的なニュアンスがあり、『聴覚障害』と言い換えが進んでいる」という偏った見解をとっていた。そこで、本研究を踏まえて以下のような指摘を2008年3月12日に行った。参考のため、その文面を紹介する。

資料 静岡県教育委員会特別支援教育課課長名倉慎一郎様宛に送付した文章

静岡県教育委員会特別支援教育課
課長 名倉 慎一郎 様

平成20年3月12日

山梨大学 障害児教育講座 准教授 古屋義博
山梨大学教育学研究科障害児教育専修 山田康朝

「聾学校 改称しないで（朝日新聞2008年3月10日35面掲載）」の中の
課長コメントの重大な偏りについて

FAXにて大変失礼します。

標記の課長コメントの「一般に『聾』という字には差別的なニュアンスがあり、『聴覚障害』と言い換えが進んでいる」との認識には重大な偏りがあり、そのような偏見を一つの根拠に校名改称を進めることは危険であると感じ、障害児教育にかかわる一研究者の立場から、ご指摘申しあげます。

1. 「聾」は形声文字であり、「龍」部に特別な意味はない

『説文解字（中国最古の文字学書）』によると「聾 無聞也从耳龍聲」とあります。つまり、「聾」とは聞こえない者を指し、耳は意味を表す部分であり、龍は発音を表す部分」にすぎません。「金」と同で銅「木」と反で板」と同じです。「聾」は「龍」の意味を込めた語ではなく、「盲」に比べれば、より中立的です。

2. 伝統ある業界誌で「聾」に関する俗説はすでに一蹴されている

『日本聴力障害新聞（昭和27年1月1日改題後初版）』では、「聾」の字について、「（龍の耳について）この耳は実際は役立たず、その上にある鹿の角みたいなものがアンテナの役目をして物音を聞く、故に耳の聞こえぬ龍の耳としてすなわち聾と読む。どうせ実在しない動物なのですから、これもいいかげんな作りごとでしょう。」と、根拠のない俗説として一蹴しています。

3. 「聾」の使用減少は当用漢字の導入を契機にしているにすぎない

戦後間もなく告示された『当用漢字表（1946年）』に「聾」の字はなく、その後通知された『公用文改善の趣旨徹底について（建議）』の『公用文作成の要領（1952年4月4日）』では、「新しいことばをくふうして使う」例として「聾話学校→口話学校」と示されました。

そのため、行政上実務的に「聾」の字の使用が控えられるようになったことを、『山梨県公報』などの用語使用の変遷を分析することを通して、明らかにしました。差別的な意味合いによって言い換えが進んだという証拠はありません。よって、「障害は障碍に」と同様に、「ろうは聾に」であることが本来です。

以上のとおり、「聾」の字に、差別的な意味合いが存在する証拠はありません。校名改称の件、慎重なご検討およびご対応が望まれるところです。

最後に、我々、新聞に書かれていることしか知らず、その前後関係の情報や課長の真意もわかりません。そのような状況でのご指摘であること、受容いただければ幸いです。

静岡県教育委員会特別支援教育課

↑

古屋義博（直通）／

文献

- 1) 山梨県（1949-1964）山梨県公報.
- 2) 全日本聾啞連盟出版局日本聴力障害新聞編集部（1973）日本聴力障害新聞（縮刷版）第1巻.
- 3) 特殊教育百年記念山梨県協賛会/編（1978）特殊教育百年記念誌. 特殊教育百年記念山梨県協賛会.
- 4) 山梨県立ろう学校/編（1983）ろう学校今昔. 山梨県立^{ママ}聾学校.
- 5) 許慎撰（1985）説文解字. 中華書局出版.
- 6) 山梨県立ろう学校義務制施行50周年記念誌編集係/編（1998）山梨県立ろう学校義務制施行50周年記念誌. 山梨県立ろう学校.
- 7) 島正三（1998）資料・日本の聾学校Ⅲ. 障害児教育資料研究会.
- 8) 山梨県立ろう学校/編（2002）山梨県立ろう学校創立80周年記念誌. 山梨県立ろう学校.